

1年道德通信

第3号

第3回『さよならの学校』



第3回の道德では、「家族」について考えました。家族はみんなにとっても、とても身近な存在です。今回の授業は、おじいちゃんの死に直面した恭の姿を通して、“家族のあり方”について考える機会となりました。みんなも家族の一員として、自分の家族に対してどのような思いを持っていますか？普段あまり考えないことを、じっくり考える時間になりました。

みんなの意見

恭が弟の誕生日祝いを泰山木の根元においてやったり、弟におじいちゃんのことを話してやったりしたのは、どうしてだろう。

- おじいちゃんのような人（精一杯生きる）になりたい。
- 尊敬しているおじいちゃんの代わりになろうと思ったから。
- おじいちゃんのことを忘れたくなかったから。
- おじいちゃんがしていたことを受け継ぎたい。残したい。
- おじいちゃんにしてもらって嬉しかったから、弟にもしてあげたかった。

恭とおじいちゃんはどんな家族だったのだろう。

- 言葉では表せないほど、ずっとつながっている、かけがえのない家族。
- ふれあいがたくさんある家族。
- おじいちゃんは色々なことを教えていたので、先生と教え子みたいな関係でもあったと思う。
- お互いのことを大切に思い合っている。



**みんなにとって、
“家族”ってどんな存在？**